

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

第81号

2010年 2月

やどりき水源林ニュース

発行(財) かながわトラストみどり財団 編集 NPO 法人かながわ森林インストラクターの会
 220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内
 045-412-2255 URL: <http://www.ktm.or.jp> E-mail: midori@ktm.or.jp

定例観察会のお知らせ(費用等負担はありません)

毎週土曜・日曜に「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。午後1時までで、やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、**冬季(12月・1月・2月)は安全確保のため休止します。**

水源林の冬 久々の雪景色



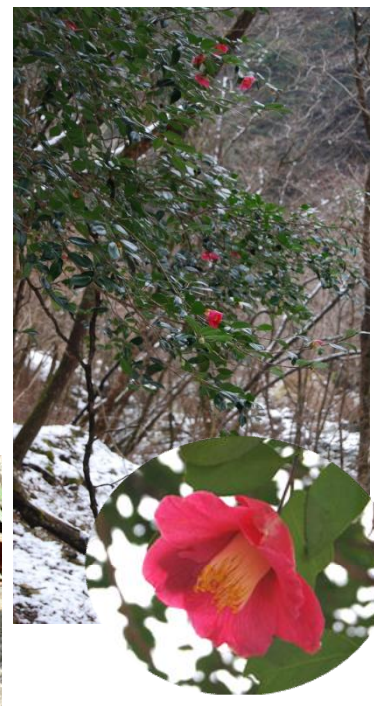
県内で2年ぶりの積雪があり、水源林も久々の雪景色です。林道の多くの場所に、餌を探し歩いたのかシカの足跡がありました。以前、急な冷え込みで命を落とした子ジカを発見したことを思い出しました。シカが増えたのは温暖化による積雪の減少も要因の一つと言われていますが、この積雪にシカも慌てたことでしょう。



雪降れば 冬ごもりせる 草も木も 春に知られぬ 花ぞ咲きける 紀貫之
『古今和歌集 卷六』から

水源林の陽だまりでは

穏やかな暖かい日が続いたこの冬、葉を落とした樹木の中で、目立つのはヤブツバキ(右)です。また陽だまりでは、秋に葉を伸ばし越冬して夏に葉を落とすので別名夏坊主と言われているオニシバリ(左上)が咲いています。よく見るとミツマタ(左下)もほころび始め、落ち葉の下ではフデリンドウ(中下)やジロボウエングサク(下右)なども春を待っているようです。



山の神祭

1月17日(日)

『山の神』とは、山を治め、山仕事をする者を守護する神様です。



山の神祭を前に、前日は注連縄しめなわの準備。当日も早朝から神殿の開帳や供物の用意、参道も掃き清めて準備完了。参拝者は70数名、厳かに1年の山仕事かしたの安全を祈願し、拍手が静かな森林に響きました。

(この鳥居は2006年12月にヒノキの間伐材を活用して、森林インストラクターが手作りで建て替えました。)

何に見えますか？

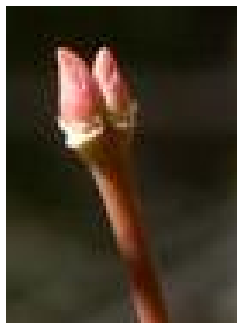


風で折れて落下したスギの枝です。スギの枝にできたこぶに、コケとシダが着生しています。よく見るとコケも胞子(円上)を作っているようですし、シダも胞子のう(円下)が見えます。同じような環境を好むからでしょうか。自然の営みは不思議がいっぱいです。この枝は、これから先どうなるのか気になります。湿度の環境変化にコケとシダは対応して地上でも生活していけるでしょうか。このシダは、ノキシノブで乾燥に強い植物といわれ、乾燥すると縮んで耐え、湿気を待つそうです。水源林では、苔むした古木に根茎をはわせて葉を茂らせているノキシノブが多く見られます。

2月のトピックス

水源林の樹木が芽吹きを待つ時期ですが、特にクロモジ、アブラチャン、ダンコウバイなど春の訪れと共に開花する樹木の冬芽は大きく膨らんでいきます。そんな様子をじっくり観察しながら、一足先に春を感じてみてはいかがでしょうか。

写真はイロハモミジの冬芽です。枝先に2つ並ぶのが特徴です。



3月の水源林

いよいよ春の訪れです。毎週土曜、日曜の定例観察会も3月から再開します。水源林の動植物が活発に活動をする様子を見ることができます。多くの方のお越しをお待ちしています。

3/13(土)には、成長の森見学会でにぎわいます。